発行者
弥生会広報部会
事務局
〒740-0012
山口県岩国市
元町1丁目
1番17号201
☎0827(30)5677
FAX0827(30)6577
http://iwakuni-yayoi.jimdo.com

季刊 やよい

初心に帰ってスタート

会長　二宮信子

人々の思ひつながる春の星

「弥生会」も八回目の総会を迎えます。

春の夜の星をながめていると、会員お一人お一人の思いが春の星のように輝いてつながってきた「弥生会」であることが思い出され、感無量です。

ある時は曇りの夜も、またある時は雨の夜もあったと思いますが、仲間という絆で今日の日を迎えることが出来たのだと感謝でいっぱいです。

その間、福田市長様はじめ、多くの方々の御理解と応援をいただきましたことは有難く、忘れてはならないことです。

私達の活動は、大きなところから見ると微々たるものかもしれませんが、「岩国の明るい未来を創る会」への熱い志は誰にでも誇れるものだと思っております。

胸の中に熱い塊のようなものがあって、やむにやまれない思いで市長選に立ち向かいました。そして、その熱い気持ちを大事にしようと「弥生会」の誕生となりました。あの弥生会誕生の夜の感激は今も私の胸にあって鳴り続けています。あらためて会を支えてくださった会員の皆様にお礼を申し上げます。

物なべて初心に帰る弥生尽

四月は新年度のスタートです。三月が終わり、全てのことを振り返り、初心を忘れることなく、原点に返ってのスタートを決心いたしました。

これまで私達は、いつも同じ方向に向かって手を取り合って突き進んでまいりました。

前進することも大事ですが、ここで初心に返って私達の活動を反省してみることも、さらなる前進につながることだと思っています。

平成二十七年度の弥生会総会を初心としてスタートしたいと思います。皆様のお力で一層結束のある会としてまいりましょう。よろしくお願いいたします。

ふるさとを思ふは同じ風光る

桜と錦帯橋のお話

川畑道子

景観誕生秘話

允恭（いんぎょう）天皇「日本書紀」八年

「花ぐはし　桜の愛で　こと愛でば早くは愛でず　我が愛づる子ら」

在原業平（ありわらなりひら）

「世の中に　絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」

本居宣長（もとおりのりなが）

「敷島の　大和心を人とわば　朝日にほふ山桜花」

今年も錦帯橋は美しい桜花に彩られ、市内外から多くの人達が訪れ、花見の宴が繰り広げられました。五年前の二〇一〇年に「日経プラスワン」で水面に映える桜の名所として西日本一位に輝いた錦帯橋の桜は市民の誇りであり、憩いの場として宝でもあります。

古への人々の桜への思いは歌に詠まれ、允恭天皇の万葉集で一番古い桜の歌は、桜の花と衣通姫をなぞらへての相聞歌で、桜を通して愛する人への思いが伝わります。

在原業平の有名な古歌は、惟喬親王と渚の院に鷹狩りに出かけ、狩りはそっちのけで桜を愛でながら酒宴を張り、歌を詠み合った時の一首で、桜があるばかりに心が惑わされると歌っています。

本居宣長の歌はまさに日本人の心を桜花に重ねて詠みあげられた歌です。

因みに、桜は日本の「国花」として日本国民に愛されています。

日本に自生し、縄文時代前期の福井県三方湖（みかたこ）の鳥浜遺跡から出土した弓に桜の樹皮が巻かれていて古来から桜が様々な形で私達の暮らしにかかわっていたことを物語っています。

錦帯橋と水面に映える桜を想うとき、錦川の両岸に広がる桜が、いつの時代に誰によって植えられ現在の景観を造り上げたのか、その探訪を試みることに致しました。

錦帯橋の桜の種の大半は「染井（そめい）吉野（よしの）」で、約三千本が錦川の岸辺を彩り、桜並木と五連の木造橋が互いを引き立て、見事な景観を見せています。

錦帯橋は岩國藩第三代藩主吉川広嘉（ひろよし）公によって一六七三年に創建され、以来、不落の橋として継承されてきましたが、昭和二十五年九月に発生したキジヤ台風の洪水で橋脚の一部が流失し、崩壊するという不幸に遭遇します。

当時、市民の熱意ですぐに錦帯橋は復興されました。優れた架橋技術で補修されながら、現在まで世紀を超えて創建当時の姿を保っています。

私達にとって錦帯橋は不変であり、清流錦川と周辺の景観も当初から現在のような景色であったような気がしていますが、古い錦帯橋の絵や版画を目にすると、松や柳の木が多く、桜はあまり描かれていません。

実は私達がお花見で愛でている桜は染井吉野という品種の桜でソメイヨシノは江戸時代の末に生まれた桜の新種です。江戸の上駒込村（染井村）に住む植木師・河島権兵衛が伊豆半島から二種の苗木、大島桜と江戸彼岸を交配して作り出した桜なのです。**（2面に続く）**